

令和4年度

あまのくらし部会
活動報告

1

あまのくらし部会の役割

- 障害のある人の地域生活を支援するための課題等について協議します。
- あまのくらし部会では、災害時にも生きる地域のネットワークづくり、親の高齢化に伴う障害のある人の自立生活や相談支援体制の整備などについて取り組んでいます。

2

令和4年度の取り組み

くらし部会では、テーマの一つとして災害についての取り組みを上げている。特に避難所に関して、障害のある人が利用しにくい、利用できないという意見が多く、様々な人に配慮できる避難所運営を考えていくことの必要性を感じていた。

令和3年度の会議の中で、委員から避難所運営シミュレーションの体験談が出されたこともあり、避難所運営シミュレーションを体験したいということになった。

ゆめ風基金（阪神大震災後にできた被災障害者支援認定NPO法人）八幡氏を講師に迎え、ゆめ風版避難所運営シミュレーションを部会メンバーで体験し、多くの気づきを得た。

3

部会の開催と協議内容

- 令和4年度 部会長：川村 副部会長：加藤、牧嵐
- 8月 ZOOMで令和3年度活動報告、今年度の活動内容について協議
- 10月 ゆめ風基金版避難所運営シミュレーションの実施
- 12月 シミュレーションを終えアンケート結果やそれぞれの意見、思いを出し合い、どのような形でフォーラムを実施するかを協議
- 2月 今年度の活動を振り返り、来年度の活動の具体的協議
- 4月 今年度の活動報告について協議

4

ゆめ風基金版避難所運営シミュレーションの成り立ち

- 国際障害者交流センター（ビッグアイ）から、平成25年に避難所図面を利用したシミュレーションができないかと相談を受け、当時有名だった静岡県開発の避難所運営ゲーム（通称HUG）の研修に参加した。
- 研修に参加した障害のある職員の感想は、「忙しすぎて、私は置いてけぼりだった」。
- ゆめ風基金では、避難所の運営手順や障害者への合理的配慮についてきちんと学べること、また障害者が無理なく参加できることを基本に「ゆめ風版避難所運営シミュレーション」を作った。半分以上を障害者の合理的配慮に関する質問とし、残りを避難所の設営に関する質問とした。

5

避難所運営シミュレーションの目的

- 避難所運営の正しい開設手順を知る。
- 避難所に来た障害者や高齢者などの対応を学ぶ。
- 障害者ととともにグループワークをすることで、障害者の理解につなげる。
- 避難所は単に逃げ込む場所ではなく、様々な役割があり、障害者自身がその役割を担う場所であることを知る。
- できるだけ地域の方が地元の障害当事者と一緒にやってくださることが理想。

6

体験してみよう、避難所シミュレーション

設問について、隣の人と話あってみましょう！

- 災害想定

震度7の地震が今の時期に発生し、1週間以上の避難が見込まれる。

電気、水道、ガスなどのライフラインが途絶え、公共交通機関はすべてマヒしている。

天気：晴れ

避難所開設：午前10時、現在の時刻は11時

7

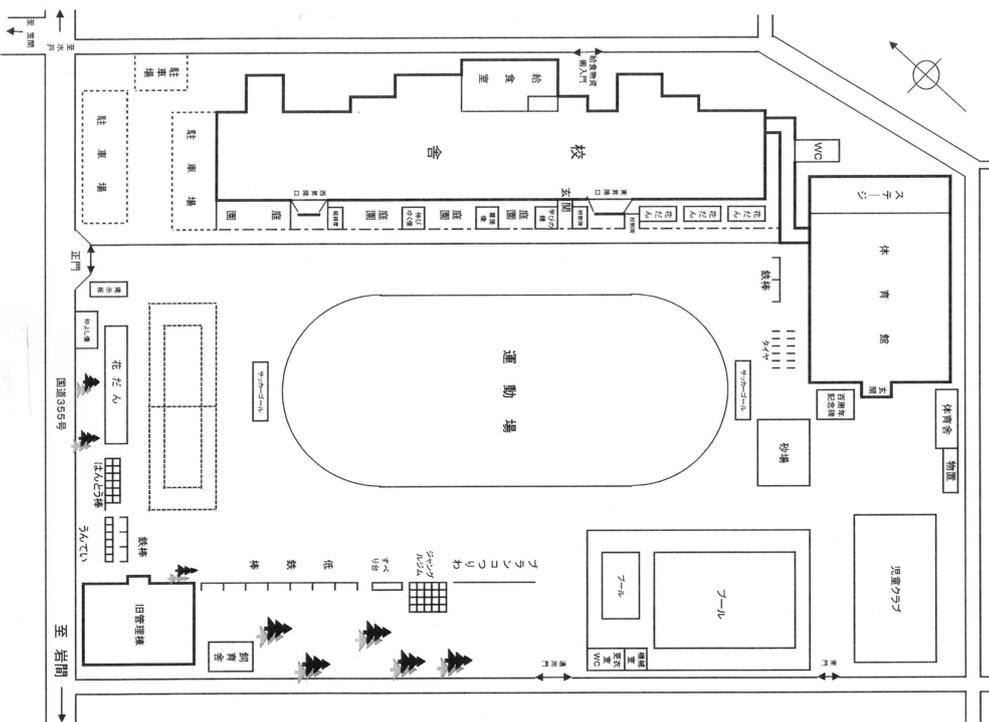
設問1

すでに100人ほどの人が避難所に集まっています。また次々と避難をしようとする人も来ています。学校は休みなので、校門は図面左側の正門しか開いていないとします。

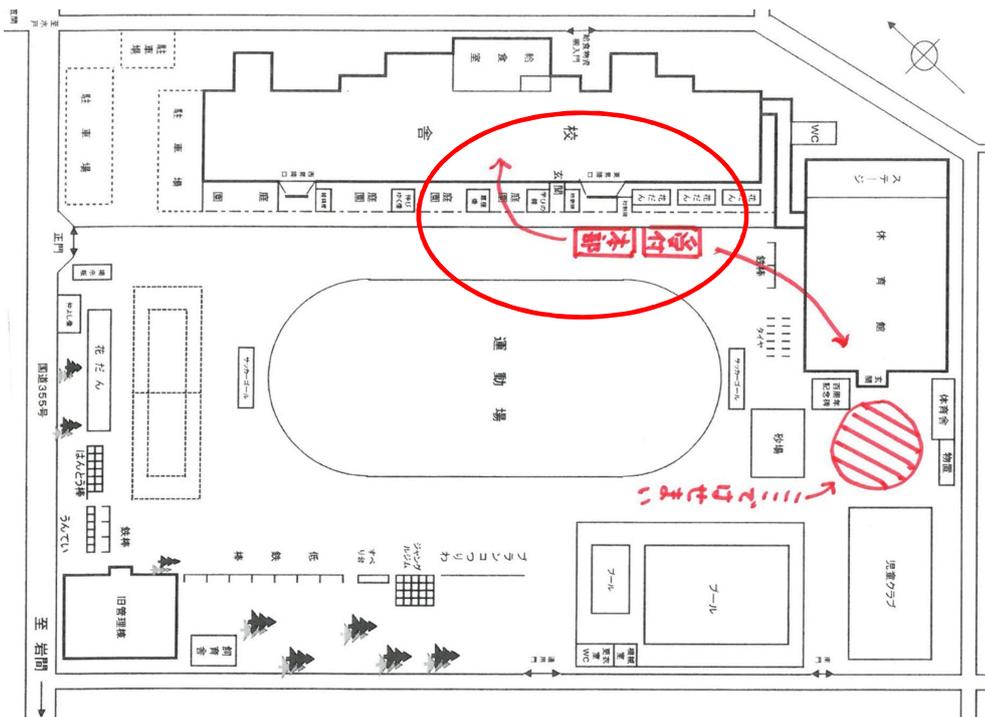
受付と本部はどこに設置すれば良いと思いますか？

8

学校平面図



学校平面図



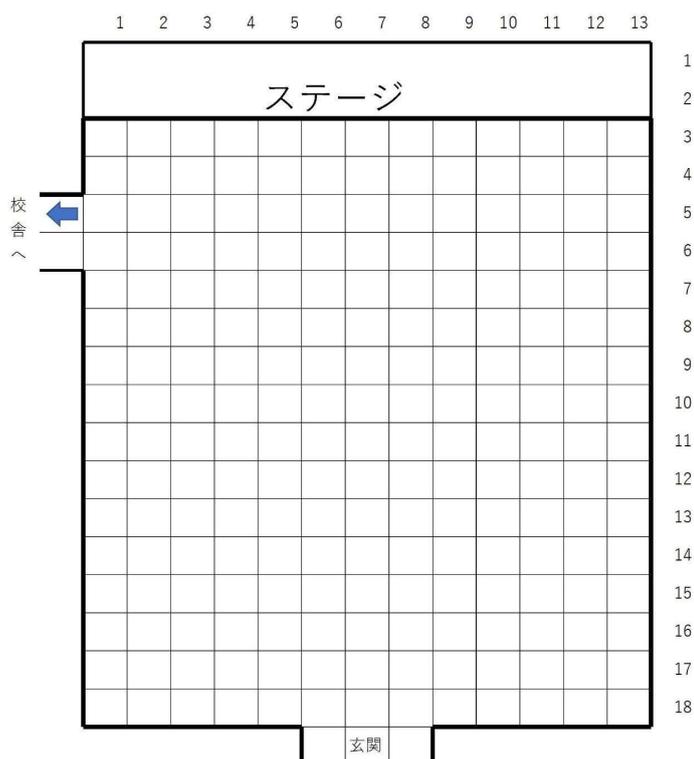
設問2

体育館に100人を避難させるとします。一人当たりの面積は 4m^2 とします。

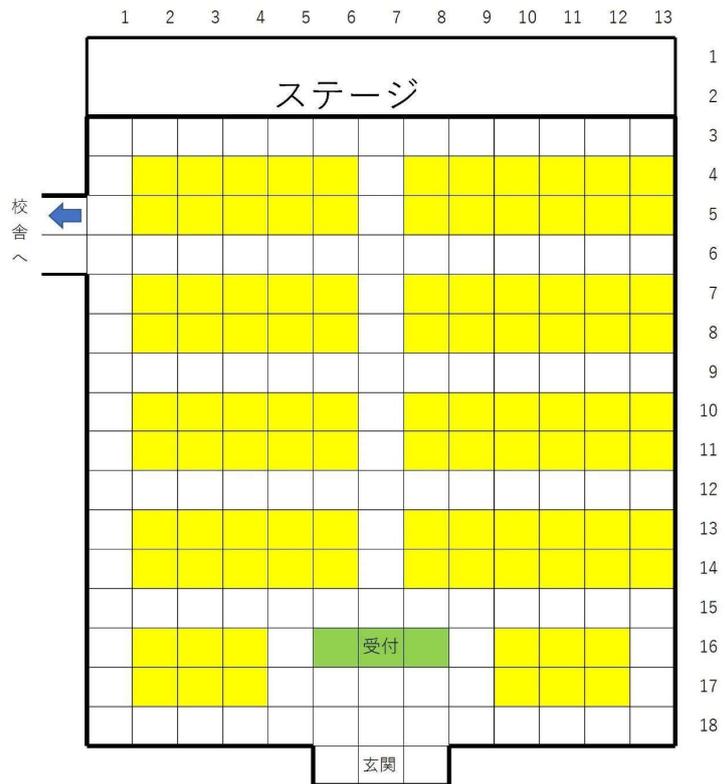
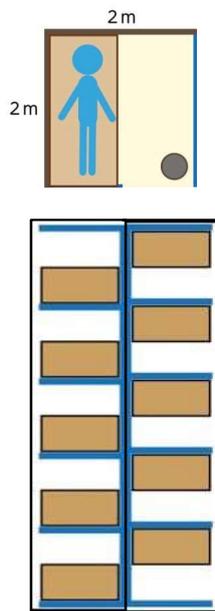
体育館内に通路を確保してください。

(マス目は2m間隔です。1マスに1人避難するので、マス目は通路以外で100マス残してください。)

11



12



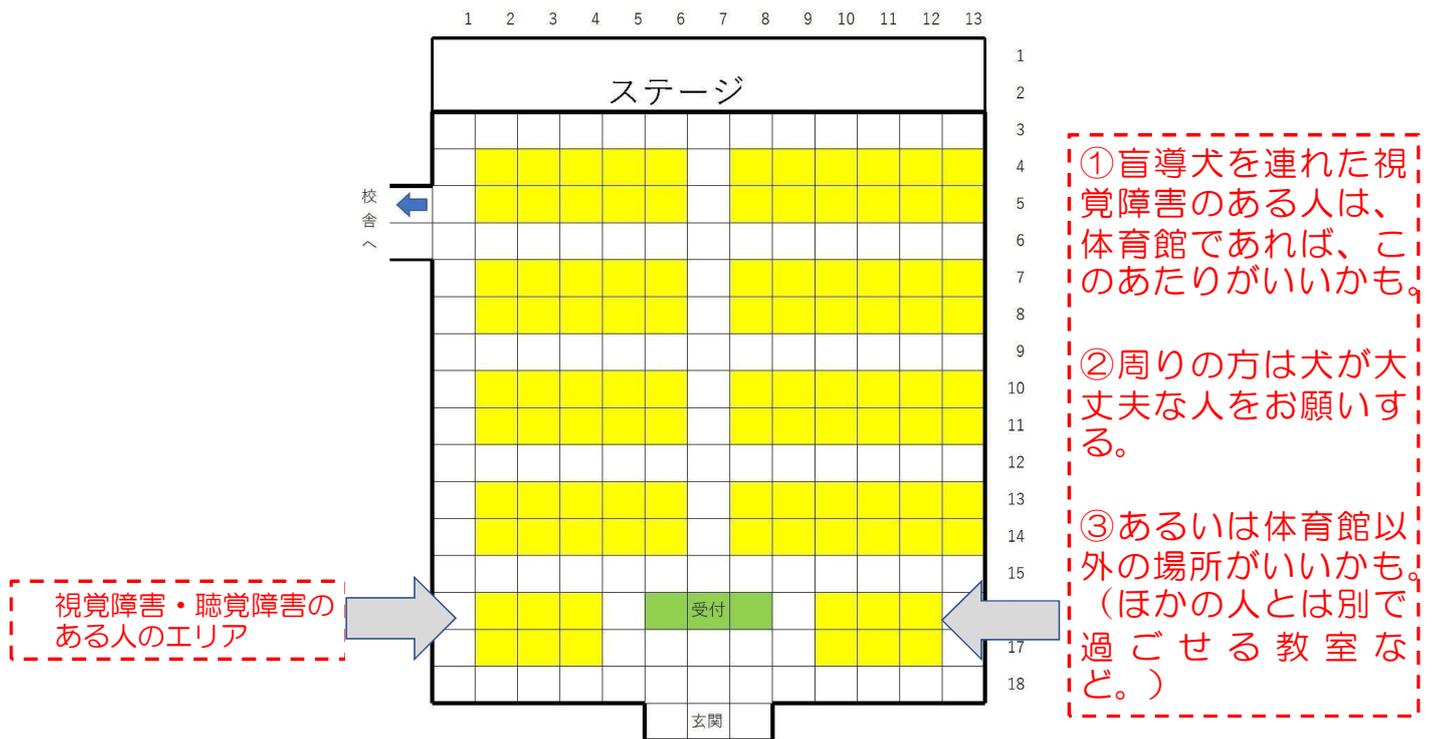
13

設問3

視覚障害のある人が避難してきています。
全盲の方で盲導犬を連れています。

どこに避難してもらいますか？

14



15

設問4

多動な子を持つお母さんが、「みんなに迷惑をかけるから、避難所は無理でしょうか」と相談に来ました。

小学5年生で普段は支援学校に通っています。

ずっと動き回る子どもで時々大きな声を出します。

どのように対応しますか？

16

避難所運営シミュレーションの参加者アンケートより①

- 当事者の人と一緒に考える事が出来れば、より充実したものになるだろうと思った。
- それぞれの地域で実施できるよう働きかけをしていければと思う。
- 実際に考える事で、多くの気付きがあった。様々な障害や合理的配慮も必要なこと、家族でもあるペット問題など、頭でわかっていたが、実際自分が住んでいる市において様々な問題、考えを知る事が出来た。
- 実際に災害が起こると出てくる課題は沢山あるのに、そういった課題を社会、地域全体として事前に考えられていないと改めて実感した。避難所とは、全ての人が避難できる権利が本来はあると思うので、過ぎやすく、安心してもらえる場所にするための配慮を考え直すべきだと感じた。

19

避難所運営シミュレーションの参加者アンケートより②

- 今後は障害のある当事者や、地域の人も含め、避難所シミュレーションを実施し、障害のある人もない人も、共に協力し、助け合っていけるようになれば良い。地域で、住人としてやってみたい。
- 当事者の方や地域の人たちと共にシミュレーションを行い、みんなで意識を高めたい。障害のある人や高齢者以外にもペットを飼う人やLGBTなど多様なニーズがあるのでみんなで考える必要がある。
- 当事者を交えて、楽しい避難所に必要なものを一緒に考えたい。

20

令和5年度のとりくみ

避難所運営シミュレーション

講師：ゆめ風基金 八幡氏

日時：令和5年10月24日（火）

13:00～15:00

場所：尼崎市中央北生涯学習プラザ大ホール

どうぞご参加ください。